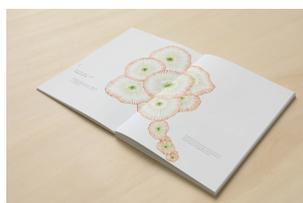


美術専攻 ヴィジュアルデザイン研究領域

シュウ エットウ

周 越東



Cryptogam

色鉛筆、紙にデジタル出力

Cryptogam

本研究は、隠花植物の形態・構造・生態に含まれる視覚情報に着目し、それら进行分析することで、デザインにおける新たな可能性を探ることを目的とする。

隠花植物は、地球上において比較的早期に出現した植物形態の一つであり、長い進化の過程の中で、動物や人類、さらには生態系全体にとって重要な基盤的資源を提供してきたが、花や果実といった明確な視覚的特徴を持たないため、その存在は日常的に見過ごされがちである。

そこで本研究では、隠花植物を「見える存在」として捉え直し、デザインの視点からその形態や特性を視覚表現を通じて、新たな存在感と価値を獲得する可能性を試みた。新たな視覚表現を通じて、人々が隠花植物をより身近に理解できるようになることを目指す。

本作品シリーズは、Origin (起源) / Growth (成長) / Generation (世代) を中心的なテーマとし、「構造・形態・生態」という三つの視覚的アプローチを通して、隠花植物を平面化かつ体系的に再解釈したものである。

Origin は藻類に対応し、流動的な形態を通して、生命の起点を示している。Growth はコケ植物に対応し、微小な形態と生態的特性を通して、持続的な生命力を示している。Generation はシダ植物に対応し、形態の特徴や繁殖過程における構造変化を通して生命の連続性を表している。これら三つの段階は循環的に連なり、自然界における持続的な生命の営みを映し出すとともに、制作を通じて、私自身が自然の秩序や神秘性、そして静かな美しさを段階的に理解していく過程ともなっている。

研究の過程において、隠花植物はその構造や形態において、動物や他の生物と意外な共通性を持つことに気づいた。特に、第一印象として感じられる生命の姿態において、その類似性が顕著であった。こうした種を越えた相互的な対応関係は、視覚表現に新たな着想をもたらした。私はこれらの特徴を、植物の構造的特性と自身の感性や観察とを重ね合わせることで、「生物性」と「植物性」を併せ持つ視覚的グラフィックを構築した。これらの図形は単なる形態の表現にとどまらず、「生命がどのように知覚されるか」という問いに対する視覚的解釈である。

本研究を通じて、デザインの視点から隠花植物を可視化し、その形態・構造・生態の視覚的表現を通してデザインにおける表現の可能性を探るとともに、植物多様性への理解を深め、人間の生活環境や社会との関係について考察する。